コロンビア定期報告：政治外交情勢（２０２６年６月、７月）

1　概要

【内政】

（１）下院弾劾委員会によるペトロ大統領に対する大統領職務一時停止命令

（２）ウリベ元大統領に対する捜査開始

（３）大統領選挙決選投票の実施

（４）大統領選挙の正統性を巡る動き

（５）違法武装勢力による対話要請

（６）政権移行プロセス

（７）セペダ次期上院議員（前大統領候補）による平和的不服従宣言

（８）コロンビア北西地域における豪雨災害

（９）新議会の開会

（１０）大統領官邸機能の分散構想

【外交】

（１）エクアドルとの関税問題

（２）トランプ米大統領によるデラエスプリエジャ大統領候補への支持表明

（３）トランプ政権による次期駐コロンビア米国大使指名

（４）ペトロ大統領の米国訪問

（５）ビジャビセンシオ外務大臣の OAS 総会出席

（６）ペトロ大統領のバチカン訪問

（７）コロンビア米国首脳電話会談

（８）デラエスプリエジャ次期政権代表団の米国訪問

（９）米国代表団のコロンビア訪問

（１０）ペトロ大統領のキューバ訪問

2　本文

【内政】

（１）下院弾劾委員会によるペトロ大統領に対する大統領職務一時停止命令

６月９日、下院弾劾委員会は、ペトロ大統領が SNS 等を通じ不当に選挙介入を繰り返しているとして、大統領選挙決戦投票が行われる６月２１日まで大統領職を一時停止する命

令を下した。しかし、その後、下院弾劾委員会に同命令を下す権限はないとの批判が出たことから撤回されることとなった。

（２）ウリベ元大統領に対する捜査開始

６月１９日、検察庁は、１９９６年及び１９９７年にアンティオキア県で発生した準軍事組織による住民虐殺・強制移住事件に関し、当時アンティオキア県知事だったウリベ元大統領が同虐殺を防止できたにもかかわらず十分な措置を講じなかった可能性があるとして捜査を開始した。

（３）大統領選挙決選投票の実施

６月２１日、大統領選挙決選投票が平穏裏に実施され、デラエスプリエジャ候補（右派）が 49.66%、セペダ候補（左派）が 48.70%を獲得した結果、デラエスプリエジャ候補が勝利した。同日、デラエスプリエジャ候補は勝利演説を行い、国民の団結を訴えた。

（４）大統領選挙の正統性を巡る動き

６月２３日、EU 選挙監視団は、今次大統領選挙の透明性及び制度的信頼性を評価した一方で、過度な政治的対立と偽情報の拡散に対する懸念を示した。同２４日、選管当局はデラエスプリエジャ候補の当選を正式に宣言した。これに対し、セペダ候補は結果を受け入れると述べたが、ペトロ大統領は選挙に不正が見られたと主張してデラエスプリエジャ候補の当選を受け入れない姿勢を示した。

（５）違法武装勢力による対話要請

６月２９日、クランデルゴルフォ等の違法武装勢力がデラエスプリエジャ次期政権との和平交渉開始への意欲を示した。これに対し、デラエスプリエジャ次期大統領は違法武装勢力が司法に服従する以外の選択肢はないとの立場を明言した。

（６）政権移行プロセス

６月３０日、ペトロ政権とデラエスプリエジャ次期政権との間で政権移行協議が開始された。次期政権側は財政赤字、治安・和平政策、医療危機、エネルギー問題、農地改革等を重点課題として位置付けて協議に臨んだが、その後双方が対立したことで、７月８日には同協議が打ち切られた。

（７）セペダ次期上院議員（前大統領候補）による平和的不服従宣言

７月１日、大統領選挙決選投票で敗北した左派のセペダ次期上院議員は（注：大統領選挙次点候補には上院議席が割り当てられる）、デラエスプリエジャ次期大統領が米国籍放棄等の条件を満たさない場合、「平和的不服従」を推進すると表明した。

（８）コロンビア北西地域における豪雨災害

７月中旬、集中豪雨に伴う洪水や土砂災害により、コルドバ州をはじめとするコロンビア北西地域の２４自治体において約１万５千世帯が被災した。他方、カリブ海地域では４０度を超える異常高温が観測された。

（９）新議会の開会

７月２０日、新議会が開会した。同日、上下両院で執行部選挙が行われた結果、上院議長には民主中道党からオノリオ・エンリケス議員が選出され、下院議長には保守党のニコラス・バルギル議員が選出された。

（１０）大統領官邸機能の分散構想

７月２６日、デラエスプリエジャ次期大統領は、大統領官邸機能を現在のナリーニョ宮殿から外務省が置かれているサン・カルロス宮殿へと移転するとともに、バランキージャを代替首都と定めて同市に官邸機能を置く構想を発表した。併せ、メデジン及びカリに代替行政機能を置く方針を示した。

【外交】

（１）エクアドルとの関税問題

６月１日、ノボア・エクアドル大統領は、それまでコロンビア産品に課していた１００％の関税を撤廃した。この決定を受け、コロンビア政府もそれまでエクアドル産品に課していた対抗関税措置を終了した。

（２）トランプ米大統領によるデラエスプリエジャ大統領候補への支持表明

６月３日、トランプ米大統領は、自身の SNS を通じてデラエスプリエジャ候補が大統領選挙で勝利することが米コロンビア関係にとって重要である旨発信した。これに対し、ペトロ大統領及びセペダ候補（左派）は、外国政府による選挙介入であるとしてこの発信に反発した。

（３）トランプ政権による次期駐コロンビア米国大使指名

６月３日、トランプ政権は、実業家のネイト・モリス氏を次期駐コロンビア米国大使として指名した。なお、駐コロンビア米国大使は２０２２年７月以降空席となっており、ペトロ政権下では任期を通して臨時代理大使が米国を代表した。

（４）ペトロ大統領の米国訪問

６月１０日、ペトロ大統領はNYを訪問し、国連安全保障理事会に出席するとともに、コロンビアが主催する児童と武力紛争等のイベントに出席した。なお、コロンビアは６月に安保理議長国を務めた。

（５）ビジャビセンシオ外務大臣のOAS総会出席

６月２２日、ビジャビセンシオ外務大臣は、パナマで開催された第５６回米州機構（OAS）総会に出席した。同総会では、多国間主義、民主主義及び地域安定の重要性を強調する演説を行ったほか、各国代表団や米州人権機関関係者らと会合を行った。

（６）ペトロ大統領のバチカン訪問

７月２日、ペトロ大統領はバチカンを訪問し、ローマ教皇レオ１４世と会談した。同会談では、コロンビア・バチカン二国間関係、コロンビア和平、国際犯罪、気候変動、中東問題等に関する議論が行われた。

（７）コロンビア米国首脳電話会談

７月３日、ペトロ大統領はトランプ米大統領と電話会談を行った。同会談では、ペトロ大統領から自身及び家族が米国財務省外国資産管理局（OFAC）の制裁対象となっている旨言及するとともに、主権を尊重した二国間関係の重要性について強調した。

（８）デラエスプリエジャ次期政権代表団の米国訪問

７月１３日から１６日、レストレポ次期副大統領、ブーラ次期外務大臣、モラ次期国防大臣、ゴメス次期財務大臣、ゴメス次期商工観光大臣がワシントンを訪問し、ルビオ米国務長官をはじめとする米政府高官や議会関係者、国際金融機関、民間企業関係者と会談し、通商、投資、安全保障及び対ベネズエラ政策等について協議を行った。

（９）米国代表団のコロンビア訪問

７月２９日、米国代表団がコロンビアを訪れ、デラエスプリエジャ次期政権との間で政治、経済、軍事等様々な分野における協議を行った。なお、同米国代表団には、国務省、戦争省、米国通商代表部（USTR)、米国貿易開発庁（USTDA)、米国輸出入銀行（Exim Bank）等の関係者が含まれていた。

（１０）ペトロ大統領のキューバ訪問

７月３０日、ペトロ大統領は最後の外遊地としてキューバを訪れた。同国では、ディアスカネル大統領と会談し、コロンビア和平プロセスにおけるキューバの役割を評価するとともに、様々な分野における二国間協力の強化について協議を行った。